

# SFRR Japan NEWSLETTER January 1, 2021



## Top News

### ◇◇◇ 2020年8月新体制スタート ◇◇◇

法人化後(2018年4月2日)、2020年8月28日開催の代議員総会(6月米子開催予定より延期)を以って、役員(理事・監事)・代議員全員が任期満了を迎え、先の選挙で選出された役員・代議員にて、新体制がスタートしました。

理事長 : 内藤裕二  
副理事長: 赤池孝章  
監事 : 岡田 茂・小澤俊彦  
会計幹事: 寺尾純二、庶務幹事: 半田 修  
(理事29名、代議員86名、監事2名)



いずれも任期は、2020年度代議員総会終了後から2022年度代議員総会終了までとなります。詳細は、学会HPを参照ください。  
<http://sfrrj.umin.jp/elelection/index.htm>

任意団体から法人設立にかけて長きに亘りご尽力頂きました豊國伸哉先生が理事長を退任され、後任には理事会の決議で選出された内藤裕二先生が就任されました。また、副理事長には赤池孝章先生が選出されました。

### ◇◇◇新理事長 ご挨拶 ◇◇◇

2021年 丑年



新理事長 年頭のご挨拶

理事長 内藤 裕二

(京都府立医科大学消化器内科)



新年を迎え、会員のみなさまにおかれましては、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。昨年より2年間に渡り、理事長を務めさせていただきましたことになりました。吉川敏一先生、小澤俊彦先生、豊國伸哉先生のお三人の理事長が育ててこられた本学会を発展させ、学際性をさらに高め社会に貢献できる存在にしていくよう努力する所存ですので、会員のみなさまの御協力、御支援を賜りたく、心よりお願い申し上げます。

昨年来、世界中に広がった新型コロナウイルス感染症(COVID-19)はわれわれの研究、臨床、教育に大きな影響を与えており、この原稿を執筆している現在、京都も第3波に襲われています。しかしながら多くの研究者がこのウイルスに対して立ち上がり、ワクチン開発にも成功したようで、国産ワクチンの臨床試験も開始されています。さらには新型コロナウイルスに対する新規治療薬の開発も進んでいると聞き及んでいます。2020年にSFRR Asiaが担当し、台湾で開催予定であった20th SFRR International Biennial Meetingが残念ながら延期となりましたが、国際本部の協力により2021年3月15日～18日Virtual WEB Meetingとして開催されることになりました。Lester Packer Awardを受賞された山本雅之教授(東北大学)の講演も予定されています。会員の先生方のWEB参加をお願い致します。

さて、本学会は法人化され、昨年には理事改選を実施し、29名の理事、86名の評議員で、400名弱の会員で構成されています。本学会が扱う学問領域(酸化ストレス、レドックス・バイオロジー)は、新たな幅広い領域に向かって発展を遂げつつあります。転写因子Nr2・活性イオン・フェロトーシスへの関心の高まり、医工連携として低温プラズマの医療応用などが進んでいます。また、副理事長の赤池孝章先生(東北大学)、事務局長の半田 修先生(川崎医科大学)とも相談し、委員会活動を活発させるべく委員の改変も実施しました。産学官連携委員会も新設し(赤池委員長)、学会の英知を濃縮した研究プロジェクトを進めたいと考えております。



### ◇ 前理事長 ご挨拶 ◇

日本酸化ストレス学会理事長退任にあたり

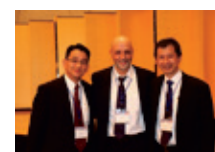
豊國 伸哉  
(名古屋大学大学院医学系研究科)



2015年度より小澤俊彦理事長の後任として5年半に渡り、理事長を務めさせていただきました。2014年3月に国立京都国際会館で内藤裕二現理事長と二人でSFRR Internationalを主催させていただいた直後からであります。長いようで本当にあつという間だったという想いです。種々の賞を企画する、あるいは学会を通じた交流を図ることにより若手の育成に最も力をいれてきたつもりです。ちょうど2016～2017年にはSFRR AsiaのPresident、2017～2018年にはSFRR InternationalのPresidentも担当させていただきました。多くの海外のフリーラジカル・レドックス関係の研究者と知り合いになれたことは大きな財産であり、今後も本学会のために大いに活かしていきたいと考えております。リスボン2018が私はPresidentであったときのSFRRの会にあたりますが、ポルトガルの異国情緒あふれ、食事も素晴らしい。沢山の思い出ができました。



この数年はSFRR Indiaへも毎年のように参加しておりました。そうした中で本学会関連の基幹誌と考えられるFree Radic Biol Med誌のAssociate Editorを2016年から務めることになりましたが、日本人の査読を増やすことや日本人の掲載論文を増やすことに多少なりとも貢献できたと思います。もとより、私は今でも日本人研究者の査読量が少ないと思っています。若手はいい雑誌から(これが重要です!)査読依頼がきたら断らずに、多少勉強してでも査読のレポートを書くことが重要です。ここから自分が論文を書くときに必要な情報がたくさん得られます。また、誰でも少なくとも2年に1報は自らの仕事の総説論文を書いてほしいものです。最初はたいへんかもしれませんが、今はEndnoteやGoogle Scholarがありますから1990年代に比べたら随分と楽に書けます。この努力により、自らのH-indexをかなり引き上げることができるでしょう。また、酸化ストレスに関連した新たな分野の開発にも努めました。そのひとつは典型的な医工連携である低温プラズマの領域(文部科学省科学研究費新学術領域研究:低温プラズマ科学の創成)です。これは、自分の好きな程度に好きなところに好きなだけ酸化ストレスを与えることのできる装置と考えていいでしょう。現在、世界中で論文が爆発的に増えています。また、昨年度から始まった新学術領域研究としては「生命金属科学」があります。すでに匂いを嗅ぎつけた若手が何人か入り込んでいますが、この領域との連携も実りあるものになればと思います。この領域は、新たな細胞死コンセプトである鉄依存性制御性壊死「フェロトーシス」も含んでおり、脂質過酸化が関連することからも本学会で最近繰り返し扱われています。今後もJCBN編集長は続けてやらせていただきますので、これを含めたさらなる学会の活性化・若手の育成に一理事として寄与していきたいと思っております。新任の内藤裕二理事長と赤池孝章副理事長のすばらしい活気あふれる舵取りのもとで、学会がさらなる発展し国際的なものになっていくことを祈ってやみません。会員のみなさま、また事務局のみなさま、長い間、私を支えていただき本当にありがとうございました。



### 各種委員会について

本会では、各種委員会を設置しております。  
統括企画部門(総務委員会、財務委員会、規約委員会、役員選考委員会、利益相反(COI)委員会、倫理委員会、選挙管理委員会、産学官連携委員会\*新設)、学術企画部門(国際交流委員会、学会誌委員会、学会賞・学術賞・功労賞選考委員会、学術奨励賞選考委員会)  
こちらの一部が改編し新体制となりました。詳細は、学会HPをご確認ください。

～ 2020年度 各賞受賞者 喜びの声 ～

各選考委員会による厳正な審査を経て、理事会・代議員会の承認の下、下記受賞が決定いたしました。受賞者の皆様の今後の益々のご活躍を祈念いたします。



「2020年度 学会賞 を受賞して」

藤井 順逸

(山形大学大学院医学系研究科  
生化学分子生物学教授 教授)



この度は、栄えある2020年度学会賞をいただきまして、豊國伸哉理事長、ご推薦いただきました内藤裕二理事、ならびに選考委員の先生方により感謝申し上げます。私は静岡大学生物学科を卒業後、修士課程まで骨格筋の収縮・弛緩を制御するカルシウム輸送ATPaseに関する研究を行い、続いて大阪大学医学部循環病理学(多田道彦教授)で心筋におけるカルシウム輸送制御に関する研究により学位をいただきました。大学院博士課程の途中から、縁あってカナダ・トロント大学(Prof. David H. MacLennan)に3年余り留学し、悪性高熱症の原因となるリアノジン受容体遺伝子の変異を見つけることができました。当時はcDNAやゲノムDNAのクローニングとシーケンシングを手作業で繰り返す毎日でした。私が酸化ストレス研究に携わるようになったのは、1990年にカナダ留学を終えて大阪大学医学部生化学(谷口直之教授)にお世話になってからです。本教室では、SOD2の発現誘導の機構やALSの原因となる変異SOD1タンパクを中心に研究し、また大学院生と共にグルタチオン関連酵素、とりわけGPX1の抗アポトーシス作用やNitric Oxideによる阻害などについて調べました。1999年に山形大学に赴任してからは、一重項酸素による傷害機構や、SOD1・PRDX4・AKR1A・xCTといった遺伝子のノックアウトマウスを用いて、細胞ならびに個体レベルの研究を行っています。生物学出身の私にとっては、遺伝子やタンパク質分子そのものを対象とするよりも、細胞やマウス個体を用いてそれらの働きを調べる研究の方が性に合っているように思います。

山形大学に着任後まもなく、当時の「日本フリーラジカル学会」会長・吉川敏一教授から入会を勧めいただき、その後は、会員歴が浅いにもかかわらず「日本過酸化脂質・フリーラジカル学会」との統合にも関わらせていただきました。30年間に渡り酸化ストレス研究に携わっていますが、本関連学会の会員歴は20年に満たない状態です。このような私が学会賞をいただけるなどは夢にも思っていませんでしたが、この度、思わぬご推挙をいただき、栄誉ある賞をいただくことができました。これまでに大変お世話になりました多くの共同研究者の皆様方、ならびに本学会関係者各位には改めて心より御礼申し上げます。まずは2021年の合同学術集会を成功させ、今後も微力ではありますが若手研究者の育成にも尽力できればと考えています。酸化ストレス研究では未だ現役のつもりですので、学会員の皆様方におかれましては、今後も引き続きご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

「2020年 学術賞 を受賞して」



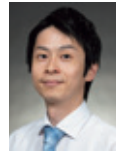
福井 浩二

(芝浦工業大学システム理工学部生命化学科 教授)

この度は、歴史ある日本酸化ストレス学会の2020年度学術賞を受賞させていただき、大変光栄に存じます。内藤理事長をはじめ選考委員の先生方に厚く御礼申し上げます。私は学生時代に本学会で理事も務められ、現在は名誉会員でもある浦野四郎教授のご指導の下で、2000年に本学会の前身である日本過酸化脂質・フリーラジカル学会で初めて会員となり発表をさせていただきました。それ以来、本学会の関東支部会、SFRR-Asia、SFRR A+J、SFRR-Internationalといった関連学会でも発表をさせていただき現在に至ります。学生時代より一貫して、酸化ストレスに関する研究に従事し、和歌山県立医科大学ではポスドクとして慢性腎臓疾患やCOPDの研究を、北海道大学理学部では助教として酸化傷害による軸索変性のメカニズムについて研究してきました。この間、米国NIH傘下のNIAにも留学し、カロリー制限時における寿命延長効果に対する抗酸化防御能の変化についても研究する機会を得ました。現在は、医・理・工の分野で経験したことをベースに加齢に伴う酸化傷害の蓄積と神経変性疾患との関わりについて研究しています。現在本学会では代議員と関東支部会の世話人、JCBNではEditorも務めさせていただいております。今後も学会の発展のために貢献させていただき所存です。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしく申し上げます。

「八木記念学術奨励賞 を受賞して」

佐藤 康太郎 (名古屋大学大学院医学系研究科)



この度は八木記念学術奨励賞を受賞することができ、大変光栄に思います。日本酸化ストレス学会理事長の豊國伸哉先生(選考当時)をはじめ、選考委員の先生方および研究をご指導いただきました方々に謹んで御礼申し上げます。本受賞論文では低温プラズマが触媒性二価鉄量依存的に殺細胞効果を示し、正常細胞と比較して口腔癌に対して選択的に殺細胞効果を示すことを報告しました。口腔は直接観察することができ、今後低温プラズマの臨床応用が期待されております。本受賞を励みにより一層研究に励んでまいりたいと考えております。



後田 ちひろ (十文字学園女子大学人間生活学部)



この度は、大変名誉ある八木記念学術奨励賞を頂き、大変光栄に存じます。日本酸化ストレス学会理事長内藤裕二先生をはじめ、選考委員の先生方ならびに関係者の皆様厚く御礼申し上げます。本研究の遂行にあたり懇切丁寧なご指導賜りました共著者の先生方、研究室の皆様厚く御礼申し上げます。本論文では、緑茶カテキンの一種であるEGCGは抗脂肪肝作用を有し、その作用には腸内細菌叢への影響が関与する可能性を報告いたしました。本受賞を励みにも今後研究に精進してまいりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



学術奨励賞については、コロナ禍に於ける年次学術集会の延期並びに開催形態の変更(WEB開催)等諸般の状況を鑑み、2020年度の選出は行われませんでした。

～ High Citation Award ～

本学会オフィシャルジャーナルであるJournal of Clinical Biochemistry and Nutrition (JCBN)において、前年度第一著者として受理された論文の中で、引用が多く、IF 向上の為に貢献のあった論文に授与するものです。2020年度は、下記の2件に授与されました。

2020年度受賞者: 以下2件

- 総説: Yuji Naito, et al.  
(A next-generation beneficial microbe: Akkermansia muciniphila: p33-35, Vol.63(1), 2018)
- 原著: Tomohisa Takagi, et al.  
(The influence of long-term use of proton pump inhibitors on the gut microbiota: an age-sex-matched case-control study: p100-105, Vol.62(1), 2018)

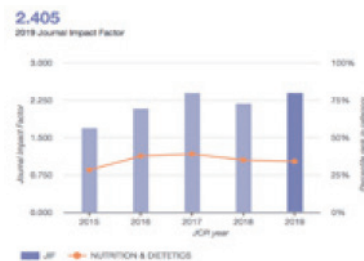


JCBN (学会オフィシャルジャーナル) 情報  
(Journal of Clinical Biochemistry and Nutrition)

JCBN随時オンライン投稿を受付中

Online SubmissionのURL

<http://www.editorialmanager.com/jcbtn/>



IF: 2.405  
(2019)

頁チャージは会員特別割引価格を設定しています。

※特別審査・掲載なども受付けております。

(別途有料・編集事務局宛にご相談下さい。)

Editorial Secretariat for JCBN <[jcbtn@nacoss.com](mailto:jcbtn@nacoss.com)>

学会賞・学術賞・学術奨励賞の公募

学会賞・学術賞は、毎年年初より公募、学術奨励賞は、年次学術集会演題公募の際に募集いたします。詳細は、学会HPをご確認ください。



◇◇◇ 年次学術集会準備報告 ◇◇◇

第73回日本酸化ストレス学会学術集会



会 期: 令和3年5月19日(水)~20日(木)  
 会 場: 仙台国際センター(宮城県仙台市)  
 会 長: 藤井順逸  
 (山形大学大学院医学系研究科  
 生化学分子生物学教授)

令和2年6月発行のニューズレターでもご案内させていただきましたように、令和3年第74回日本酸化ストレス学会学術集会を、第21回日本NO学会学術集会と合同で開催すべく準備を進めておりますので、進捗状況をご報告させていただきます。日本NO学会については、牟幸仁先生(広島大学原爆放射線医学研究所教授/広島大学病院未来医療センター長)が会長を務められます。通常でしたらいずれかの会長の地元で開催すべきところですが、仙台での開催となります。令和3年は、東北地方を中心に甚大な被害を被った東日本大震災から10年の節目の年となりますが、会場となる仙台国際センターの開設や会場まで延長された地下鉄などを通して着実な復興を感じていただければと思います。

既に会員の皆様にご案内させていただいておりますホームページにつきましては、随時内容をアップグレードしています。本ニューズレターが届く頃には、演題募集が始まっていると思います。本合同学術集会のテーマは、本学会が生命科学を牽引する重要な役割を担っていることに基づいて、「レドックスバイオロジーの切り開く生命科学の未来」としています。特別講演では、これまで本研究領域で多大のご貢献をいただいていた山本雅之先生に「酸化ストレス応答の分子メカニズムと病態」のタイトルでご講演を賜ります。合同シンポジウムは「活性酸素とNO: 化学反応から生体応答、そして応用」の課題で、酸化ストレス学会主催シンポジウムとして「酸化ストレス疾患病態解析における分析技術の新展開(仮)」と「フェロトキシ-脂質過酸化がもたらす細胞死(仮)」を、さらに若手の会主催による「理工学協調の酸化ストレス応答の分子メカニズムと病態」のタイトルで「生体内金属動態の統合的研究による疾患へのアプローチ(仮)」を予定しています。また『日本酸化ストレス学会学術奨励賞』選考会とは別に、一般演題としてご応募いただいた口演・ポスター発表の奨励賞対象年齢の研究者に、優秀賞を授与し賞揚する予定です。このように学術的に盛りだくさんの企画を予定しておりますので、ぜひとも仙台にご参集いただき、研究成果のご発表、ならびに情報収集とご議論をしていただきたいと思っております。

令和2年度の学術集会を終えて間もない時期での演題募集となりますが、多くの会員の皆様のご参加をお願いいたします。次の時代を見据えて、酸化ストレス研究を担う多数の若手研究者が集いエネルギー溢れる会にしたいと思っておりますので、会員の皆様方のご尽力を宜しくお願い申し上げます。



◇◇◇ 支部だより ◇◇◇

日本酸化ストレス学会 東海支部 第9回学術集会

日 時: 2021(令和3)年2月13日(土)13:00~17:30(予定)  
 会 場: WEB開催(ZOOMによる双方向ライブ配信)

実行委員長: 水谷 秀樹(金城学院大学 教授)  
 参加費: 無料(但し、参加者把握の為、事前登録 要)  
 \* 定員300名(東海地区以外からの参加歓迎)



プログラム:

教育講演「炎症関連発がんにおけるエピゲノム異常」  
 村田 真理子 先生(三重大学大学院医学系研究科 教授)  
 一般演題: Zoomを使用した口頭発表(公募: 締切2021年1月8日)

東海支部における第8回学術大会の演題、参加者を募集いたします。学部学生、大学院生はじめ研究者の皆様方の多数のご参加をお待ちしております。



◇◇◇ 年次学術集会開催報告 ◇◇◇

第73回日本酸化ストレス学会学術集会



会 期: 2020年10月6日(火)~7日(水)  
 会 場: WEB並びに誌上開催  
 会 長: 松浦 達也

(鳥取大学医学部生化学(旧統合分子医化学)教授)

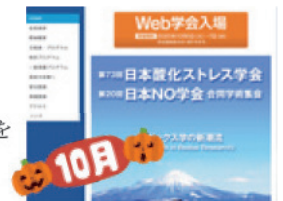


まず初めに、今回の学術集会が新型コロナウイルス感染拡大のため開催日を当初の2020年(令和2年)6月3日~4日から2020年10月6日~7日に変更したにもかかわらず、鳥取県米子市での現地開催ができず、皆様方に変なご迷惑とご心配をおかけしましたことを心よりお詫び申し上げます。

さて、今回の学術集会は第73回日本酸化ストレス学会/第20回日本NO学会合同学術集会として10月6日~7日の2日間Web開催と誌上開催で開催し、無事に終了することができました。参加していただいた方には素晴らしい会であったとの感想もいただいております。これもひとえに皆様方のご協力とご支援の賜物と心より感謝しております。

概要につきましては、参加者(参加費納入まで完了した者)は141名でした。演題発表は特別講演、学会賞・学術賞の受賞講演、シンポジウム1, 2と合同シンポジウム、2つのランチョンセミナーをWeb上でのオンデマンド配信で行いました。一般口演は57題(うち3題がWeb発表で残りは誌上発表)、ポスターは62題の誌上発表がありました。参加者は当初想定していました人数よりかなり減少しましたが、オンデマンド配信で本来なら同時に行われる2つのシンポジウムを両方視聴することができ、大変有意義であったと思っています。ただ、問題点として双方向での質疑応答が準備できなかったことが今後の課題として残りました。また、学術集会のもう一つの目玉である懇親会で山陰の食、美味しいお酒を用意して皆様をおもてなしできなかったことを大変残念に思っています。皆様には機会がございましたら、この地を訪れていただき山陰の自然、食、文化に触れていただきたいと願っております。

最後になりましたが、コロナ禍にあり、開催も危ぶまれた学術集会を何とか開催することができました。改めまして皆様方のご協力に感謝いたしますとともに、本学会と皆様方の益々のご発展をお祈りいたします。有り難うございました。



2019年度学会賞・学術賞受賞記念講演

第73回年次学術集会にてWEBにて行われました。現地会場開催が叶わなかった為、記念楯は郵送にて授与されました。



(学会賞: 下川宏明)



(学術賞: 中西郁夫)



◇◇◇ 支部だより ◇◇◇

すでに前回ニューズレターで周知しておりますが、開催予定でした第34回日本酸化ストレス学会関東支部会は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で延期の状態が続いております。延期開催の時期につきましては、新型コロナウイルス感染状況を踏まえ、来年の本会開催動向を鑑みながら、プログラム委員会を中心に再討議しまして、詳細を決めていく予定であります。現状の感染状況では従来の支部会開催形式が難しい中、WEB開催で行う可能性を討議する予定ですが、どのような学会形式を選択しても、会員のためになり、新規会員増員にもつながる支部会へ発展する機会にしたい、と現在模索しているところであります。従いまして、第34回のプログラムを再考することを含め、新型コロナウイルス感染に関する最新状況も踏まえ、会員の皆さま方が知りたいアップデートなエビデンスの紹介なども盛り込みたい、と考えています。開催日時が決まり次第、お知らせいたしますので、第34回日本酸化ストレス学会関東支部会につきまして、改めまして会員の皆様方にはご講演、ご発表、ご参加を頂きますよう重ねてご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

関東支部 李 昌一

◇◇◇ 関連学会 開催案内 ◇◇◇

以下の関連学会情報は予定を多く含みます。変更などが生じる可能性もありますので、詳細については、各主催団体にお問い合わせ下さい。また、学会HPにでも随時情報を掲載予定です。

**20th Society for Free Radical Research – International Biennial Meeting (WEB開催)**

Date: 15-18 March, 2021  
Venue: Virtual Meeting (WEB開催)  
Contact: Secretariat@sfrri2021.com  
詳細: <https://sfrri2021.com>



※2020年3月に台湾にて開催予定であった第20回SFRR(COVID-19感染拡大につき中止)の演題を中心にVirtualでの開催となりました。

**関連国際学会**

**SFRR Europe Annual Meeting 2020**

Date: 15-18 June, 2021 (Postponed)  
Venue: Belgrade, Serbia  
Further information: [www.sfrre2021belgrade.rs](http://www.sfrre2021belgrade.rs)



**28th Annual Meeting of the Society for Redox Biology & Medicine**

Date: November 17-20, 2021  
Venue: The Westin Savannah Harbor, Savannah, Georgia, USA  
Further information: [sfrbm.org](http://sfrbm.org)

**新 シリーズ:酸化ストレスの轟き 第5回**



フリーラジカル研究の軌跡

小澤 俊彦

(放射線医学総合研究所名誉研究員・日本薬科大学客員教授・元日本酸化ストレス学会理事長)

フリーラジカルの研究を始めてからすでに50年以上が経過した。卒論の研究室に配属された時に、初めてアスコルビン酸からのラジカルをESRで検出した。当時、所属する研究室には日本電子製の国内2号機のESRがあったので、それに迅速—混合流通装置を組み合わせて、短寿命のラジカルを水溶液中で観測した。当時、ラジカル研究、特に溶液中のラジカル研究は皆無に近く、ラジカルも「遊離基」と呼ばれていた。このように、マイナーな研究領域であったが、新しいラジカルを発見することに非常に興味をもったので、上述の方法を用いて、多くの新しいラジカルを検出・同定する研究を開始し、これまでに多くの新しいラジカルを見出した。特に、金属イオンに結合したラジカルの検出・同定を基に修士論文を、亜硫酸陰イオンラジカル(SO<sub>3</sub><sup>-</sup>)の検出・同定、反応性の研究を中心に博士論文をまとめた。放射線医学研究所に移った時に衝撃的なFridovichらの論文でラジカルが体の中で生成されるということに驚くと同時に未確認だったスーパーオキシド(O<sub>2</sub><sup>-</sup>)をESRで確認する方法を検討し、酸素の一電子電解還元により溶液中に初めてその存在を確認した(FEBS Lett.,1977)。同時にスーパーオキシドの濃度を定めることが出来たので、ビタミンEを始めとする多くの化合物との反応を定量的に行うことが出来た。その後、新しいスピントラップ剤(DBNBS)の開発やFenton型の反応(銅(II)錯体-H<sub>2</sub>O<sub>2</sub>)系を見出し、多くの新しいラジカル種を検出・同定することが出来た。また、生体内のラジカル検出をin vivo ESRで検討し、一酸化窒素(NO)を捉えることができたが、活性酸素を含む他のラジカルに関しては残念ながら生体内では直接捉えられていない。今、振り返って見るとマイナーであったラジカル研究が、ラジカルを中心とする酸化ストレス研究につながり、本学会の立ち上げに参加することができ、酸化ストレス研究の発展に少しは寄与できたのではないかと自負している。



(1998年San Paulo, Brazil SFRR後のイグアスの滝にて)

◇◇◇若手研究者の会 発足◇◇◇

**日本酸化ストレス学会若手の会からのご案内**

2020年2月に日本酸化ストレス学会理事会の承認を受けて発足しました「若手の会」では、主な活動としてフリーラジカルスクールや年次学術集会時のシンポジウムの主催などを行っていきます。また、それらの運営を若手が学べる場としてもいきたいと思っています。今年度は残念ながら顔を合わせて交流する機会を作ることはできませんでしたが、来年度は2021年5月に仙台で開催される第74回日本酸化ストレス学会学術集会(第21回日本NO学会学術集会との合同開催)において、若手の会主催のシンポジウム「医理工学協調の次の酸化ストレス研究へ」を開催いたします。また、夏恒例のフリーラジカルスクールも、2021年8月開催を目指して鋭意準備中です。若手の会では、一緒に学会の活性化に取り組んでくれるメンバーを随時募集中です。興味のある方は、若手の会事務局(yfr.since2020@gmail.com)にご連絡ください。多くの若手研究者の参加をお待ちしております。



若手の会 代表 安井博宣  
(北海道大学 大学院獣医学研究院)

◇ SFRR International & Asia News ◇

\*2020年はコロナ禍により、主たる関連国際学会の開催が延期・中止となり、若手奨励賞(Young Investigator Award)の授与は残念ながら行われませんでした。また近い将来に学会が再開され、対面式で授与できることを祈念しております。

\*SFRR Japan(日本酸化ストレス学会)は、SFRR International並びにSFRR Asiaの下部組織です。日本酸化ストレス学会の会員の方は自動的に両国際組織のメンバーとなっております。

→ 関連学会(国内外)において、会員割引価格が適応されることがあります。海外の学会へ参加等の際に、会員証明書を求められた場合は、事務局まで、英文にて氏名・所属・生年月日を通知の上、ご依頼下さい。証明書を発行します。

【オフィシャルジャーナル】 “Free Radical Research”

-12 issues per year  
-2019 Impact Factor: 2.839  
出版社: Taylor & Francis



[http://sfrj.umin.jp/asia/en\\_Official\\_Journal.htm](http://sfrj.umin.jp/asia/en_Official_Journal.htm)  
会員特別価格での定期購読の受付を行っています。

ご購入希望の場合は、事務局までご連絡をお願い致します。

◇◇◇ 事務局より ◇◇◇

新型コロナウイルス感染拡大に振り回され、日常が激変した2020年を何とかやり過ごし、新しい年を迎えました。感染拡大防止を念頭に、学会活動も延期や中止を余儀無くされております。SFRBM(アメリカ開催)の際に、垂直に2分割されたペーグルがポスター会場などに朝早くから山積みでセッティングされおり、セルフで焼けるトースターや一盛りになったバターやジャム、ドリンク類の提供などが好評で、学会参加の楽しみの一つになったりしていたかと思いますが、この状況下では同形態の提供などんでもないのだろうか、と切なく思っております。医療従事者や研究者の皆様をはじめ全世界が一致団結して、憎らしいウイルスを撃退し、新しい2021年は明るい話題に溢れる一年になりますように祈りたいと思います。心置きなくペーグルを焼きながら、世界の学会参加者の皆さんと笑顔でお会いできる日を心待ちに、2021年1月号をお届けいたします。

NL問合せ/連絡先: [sfrj@koto.kpu-m.ac.jp](mailto:sfrj@koto.kpu-m.ac.jp)



**SFRR Japan Newsletter 2021年1月号**

発行:2021年1月1日

一般社団法人日本酸化ストレス学会事務局  
(総務委員会:半田 修・犬童寛子・中西郁夫)

法人事務局:〒602-8048

京都市上京区下立売通小川東入西大路町146番地 中西印刷(株)内

Tel:075-415-3661 Fax:075-415-3662

内容に関するお問い合わせ: E-mail:[sfrj@koto.kpu-m.ac.jp](mailto:sfrj@koto.kpu-m.ac.jp)

HP: <http://sfrj.umin.jp/index.htm>